
アンチションとコントラ・アンチション

で。ギリシャ期のアスペクトの概念のご紹介をする前に。アンチションとコントラ・アンチションについてを先にちょっと。上記、くりまる謹製アンチションとコントラ・アンチションの図版をどうぞご参照ください。

【アンチション Antiscion】 「同等の力、同等の光の所有」

夏至（蟹0度）と冬至（山羊0度）を基点とするサインの対称関係。光が同じということで、「お互いが顔見知り」の親和性を持つとされる。

【コントラ・アンチション Contra-antiscion】 「同等の上昇時間」

春分点（牡羊0度）と秋分点（天秤0度）を基点とするサインの対称関係。上昇時間が同じということで、サインよりも度数による関連性を持つとされる。

という。このアンチションとコントラ・アンチションですが。ホラリーでもネイタルでも。古典占星術ではバンバン活用されていますよね。どういう意味合いや象徴を持たせるのか？は自分はまだよくわかってないのですが。このアンチションとコントラ・アンチションの活用方法のひとつに興味深い役割があります。

ギリシャ期では、サイン間のアスペクト（30度、60度、90度、180度）を「behold」という概念で捉えていました。これは、お互い同士を「注視する、じっと見る、見守る」、つまり「よく見ること」と捉えていたのです。

そしてサインとサインの30度&150度関係は、「アバージョン」、すなわち「お互いを見ない、見えていない、見ようとしなない＝嫌い合っている」という、反りの合わない関係とみなしていたようなのですが。

その反りの合わない、嫌い合うとされる30度&150度のサイン同士であっても。以下の3種類に該当する場合は、そのアバージョンが緩和され（キャンセルされ）、お互いの親和性が増すとされています。

これって。接点がなくて付き合いのなく。話をしたことのなかった相手が。実は同郷出身だったとか。共通の知人がいるとか。共通の趣味があったとか、わかったとたんに急に親近感を抱いてしまうというような。そんな感じなのではないでしょうか。

▼アバージョン（30度&150度）のキャンセル（例外）

■アンチション 「同等の力、同等の光の所有」

■コントラ・アンチッション「同等の上昇時間」

■同じルーラーの共有 Like Engirding, Sence of Touch

同一のドミサイルルーラーを共有するサインの間には親密性が生まれ、サイン間のアバージョン（30度&150度）をキャンセルするとされている。

↓

牡羊と蠍の150度、牡牛と天秤の150度 蟹と獅子の30度、山羊と水瓶の30度

※参照：ウィリアム・リリーの「クリスチャン・アストロロジー」109ページ
（Ascella版 Books?&? 50ページ）

この「Signs not beholding one another」の図版に、インコンジャンクトサインの一覧があります。この図でみると、「同一ルーラー」のアバージョンのキャンセルは採用していないようですね。

12サイン（ハウス）別のアバージョンのキャンセルの図版

そして。「アンチッション」「コントラ・アンチッション」「同じルーラーの共有」を、12サイン毎に試しにあてはめたのが上記の図版です。これはwholeサインでハウス割り当てをしていると仮定して見てください。

●黄色： ASCサイン（=1ハウス）

●赤色： ASCからみて30度&150度となるアバージョンのサイン
（=12 & 8ハウス、8 & 6ハウス）

●水色： 上記のアバージョンのキャンセルを適用したサイン（=ハウス）

どうでしょうか。自分としては。ここからいろいろなことが見えてきて非常に面白く思うのです。例えば、活動宮は赤色のサイン（&ハウス）が1つ、不動宮ですと赤色のサイン（&ハウス）が3つ、そして柔軟宮では赤色のサイン（&ハウス）が2つとなっています。

さてこれで。いよいよやっというか。本題の「?2ハウスと6ハウスの考察にも。じわじわと近づいてきているような感じが自分はしてきています。

そして次に、アスペクトについてをおさらいしようと思います。

くりまる

2006年10月29日 03:46